

「ファインバブル産業会基本宣言」

～Well-Being 産業として～

ファインバブル技術は日本発の革新的技術であり、その応用範囲は環境分野、ライフサイエンス分野、農業分野、インフラ分野等広範にわたり、将来的には日本を代表する基幹産業となる可能性までも秘めているとの認識に基づき、我々は産学官の連携のもと、2012年7月23日に「ファインバブル産業会(FBIA: Fine Bubble Industries Association)」を設立し活動を開始いたしました。

その後、ファインバブル技術は発生技術、計測技術に加え、幅広い応用分野で着実に開発が進み、市場が着々と形成されてきています。特に、最近では、当初の BtoB 製品の成長に加え、BtoC 用ファインバブル製品が急速に実用化され新たな市場が形成されてきています。

また、応用分野拡大と共にファインバブル技術の各種効果の実証も急速に進んできています。ファインバブルによる構造物の洗浄効果、排水の水質浄化効果などの産業分野での効果実証に加え、生活分野、ヘルスケア分野、更には医療応用分野での各種効果も報告されてきています。この結果、ファインバブル技術は、国連の提唱する「持続性ある革新目標 (SDGs)」の多くの分野で目標達成の原動力になり得ることが判明し、ISO での SDGs マッピング規格も我々が提案し規格化しました。

一方、SDGs に代表される社会活動の基本理念に関して、最近では、国際的に「Well-Being」個人も含めた究極の豊かさの追求という概念が注目を浴びてきており、SDGs の達成目標も含まれた、個人、企業、社会の活動の基本理念となりつつあります。この、社会活動の目標概念を超えた個人も含めた究極の豊かさの追求はファインバブル技術開発、市場化の目指すべき方向性を端的に表現したものと考えられ、我々ファインバブル技術産業は今後、Well-Being 産業として発展していくことを目指すべきと考えます。

Well-Being 産業への発展を確実なものにするためには、従来にも増してエビデンスベースでの活動を拡大していく必要があります。ファインバブル技術の持つ効果が広範に及ぶにつれ、その効果を適切に検証するデータとその詳細の開示が市場から強く求められています。特に、BtoC 製品の急速な拡大に伴い、国内外の消費者からは、製品・サービスにおけるファインバブルの存在や効果の内容を科学的根拠を以てわかりやすく説明する要望が高まっています。

これらの社会的要望に対し、FBIA は会員一丸となって信頼を与えるエビデンスを積み上げると共

に情報発信に関しても「広告・宣伝ガイドライン」の遵守をはじめとして、エビデンスベースでの取り組みや、ISO 規格に FBIA 提案で定義された用語「ウルトラファインバブル」の会員率先による利用推進及び普及適正化等を基本として市場の健全化を図ることを目指して行きます。

FBIA はこの様な活動の基礎となる計測技術の普及、発展に取り組むと共に、認証活動や産業基盤確立のための ISO 活動も従来にも増して充実させていく考えです。特に、計測技術の支援では FBIA 自身が計測技術のセンター的役割を果たし、教育機能なども充実させ、誰一人取り残すことのない体制でエビデンス発信機能を充実させていくこととしており、かかる活動の強化と共に Well-Being に貢献する産業として大きく発展していく考えです。

令和 3 年 6 月 15 日
ファインバブル産業会 (FBIA) 総会決議